



みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



# 信毎こども記者ニュース



こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657  
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.40

信毎こども記者クラブは9日、取材教室「バイオリンのお医者さんてどんな仕事?」を長野市で開催しました。「バイオリンドクター」の中沢宗幸さん(71)＝東京、弓作りが専門の山浦資さん(61)＝上田市＝に、木や動物の毛など、自然からもらった素材でできる楽器のみ力、修理の様子を取材しました。

## 自然の素材生かす技



長野市6年 林部菜々子 記者  
かなは体全体で

バイオリンの表板はやわらかいマツを使い、裏板はかたいカエデを使います。カエデをかなで削ってみると、腕だけでなく、体全体を使うのだなあと思いました。

中沢さんは、「やせた土地で育った木はかたく、肥えた土地だとやわらかく、温かい音色がでる」と話していました。使われる木の種類や育った環境の違いで、ひびいてくる音色が変わってしまうことを知り、そのせん細さにおどろきました。



安曇野市6年 横内慎太郎 記者  
バイオリンにもお医者さん

ほくは、大きなけがをすると病院へ行きます。人間と同様に、バイオリンを治療する人がいます。バイオリンドクターの中沢宗幸さんに会い、修理の様子を見せてもらいました。

最初に表板をはずす時「バリッ」といえばやさしい手術に、逆に「ミシンミシン」というと難しい手術になるそうです。見せてもらったバイオリンは、名器「ストラディバリウス」をまねた約100年前のもので、とても古そうでした。本物は数十億円するそうです。

医者、人間や動物のためにいると思っていただけ、バイオリンにもいたことにとても驚きました。



松本市4年 矢口駿太郎 記者  
白い馬のしっぽでいい音出す

バイオリンをひく弓に使われているウマのしっぽの毛は、とっても大切です。一番いい音を出すのは白いウマのしっぽで、キューティクルがとても細かく、いい音が出ます。以前、ナイロンの弓が増えたことがありました。その弓でひくと音が出づらく、力を入れてひいたため、音がどんどん重くなって、ひく人たちのうでがどんどん落ちてしまったそうです。

バイオリンは、自然のものからできています。中沢さんも、自然を大切にしないといけないと考えています。



長野市4年 塚田彩音 記者  
道具を使わず病気がわかる!

バイオリンのお医者さんの中沢さんの仕事は、病気のバイオリンを治すこと。すごいと思ったことは、何の道具も使わず、どんな病気がわかることです。ひいてわかったり、たたいてわかったり、耳と手と目で治りようします。



バイオリンは人間の声に一番近いともいわれるので、直す時には「いい声にしてお返しあげたい」と思うそうです。



今日、みなさんからもらった力を、バイオリン作りを生かそうと思います。

中沢宗幸さん

ありがとう!

山浦資さん

体力作り足に重り!

